

ユニセンスNPPシリーズ (ポリアリル系ネットワークポリマー前駆体(NPP))

試作品名	イオン性	外観	ポリマー濃度(%)	溶媒	ヨウ素価 ¹⁾	分子量 ²⁾	製品pH	製品粘度(mPa・s)	備考
ユニセンス NPP-301L	カチオン	淡黄色液体	20	水	約15	約5万	3	10	MITIなし 受注生産
ユニセンス NPP-103L	カチオン	淡黄色液体	20	水	約35	約10万	3	40	MITIなし 受注生産
ユニセンス NPP-004L	カチオン	褐色液体	17	水/DEG ³⁾	約120	約5万	3	250	MITIあり 受注生産

期待される使用用途

- ・ マクロモノマーとしての利用
(カチオン性ポリマーへの異種ポリマーの導入)
- ・ 架橋剤としての利用
(分岐構造の付与)

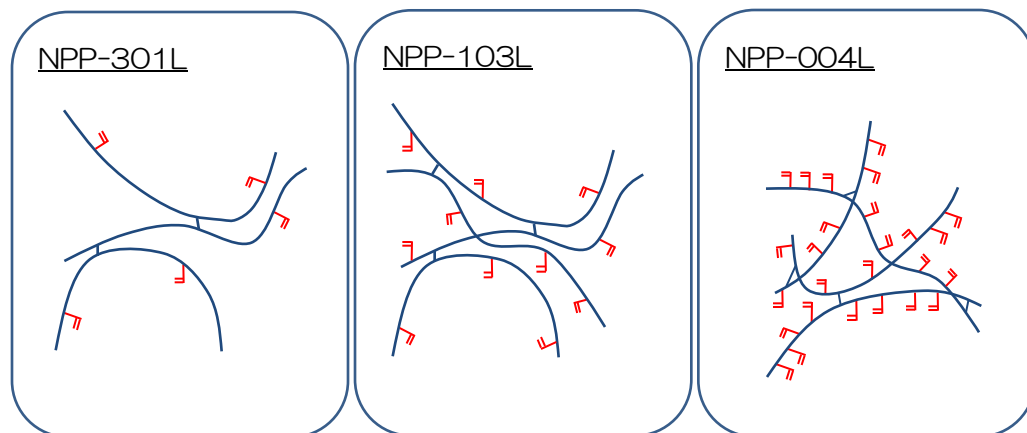
* 上記の数値等は代表値であり規格値ではありません。

- 1) ポリマー100gに付加するヨウ素 (I_2) のグラム数
- 2) 重量平均分子量 (標準試料: ポリエチレングリコール) サイズ排除クロマトグラフィー (SEC) により測定
- 3) ジエチレングリコール

ユニセンスNPPの模式図

ユニセンスNPPシリーズは、分子内に分岐構造を有したアリル系カチオンポリマーであり、さらにポリマー中にラジカル重合可能な反応基を有しています。

ポリマー中の反応基を利用して、他のラジカル重合性モノマーとも共重合が可能になることから、マクロモノマーとしての利用、架橋剤としての利用などが考えられます。



↗ は反応性アリル基を表す

ユニセンスNPPシリーズの使用例

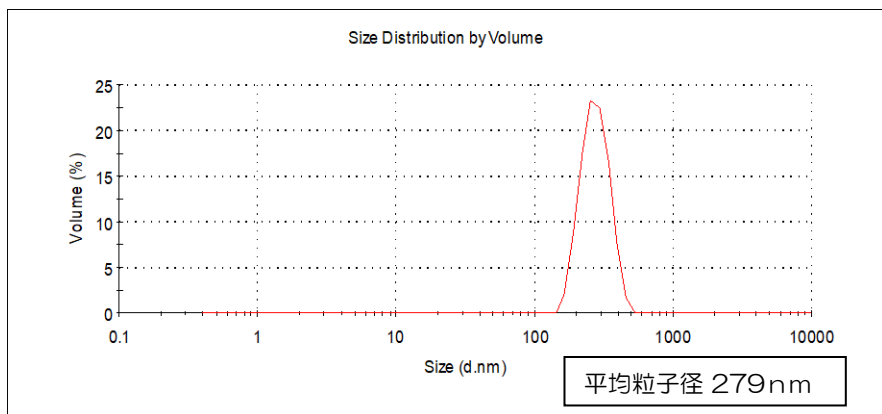
～疎水性モノマーとの共重合～

・ アクリル酸エチル/NPP-301L 共重合 (反応溶媒：水, 開始剤：アソ系)

重合体の外観



外観均一
凝集物なし



水中でユニセンスNPP-301Lと疎水モノマーを重合させると、NPPに疎水性ポリマーが導入され、ナノオーダーのポリマー微粒子が得られます。

<微粒子形成模式図>

